

フィリピン地域基本文献

入門書

- 『[東南アジアを知る事典\(新版\)](#)』(桃木至朗編、2008年、平凡社)
『[現代フィリピンを知るための61章\(第2版\)](#)』(大野拓司・寺田勇文編、明石書店、2009年)
『[もっと知りたいフィリピン\(第2版\)](#)』(綾部恒雄・石井米雄編、弘文堂、1995年)
『[暮らしがわかるアジア読本 フィリピン](#)』(宮本勝・寺田勇文編、河出書房新社、1994年)
『[フィリピンの事典](#)』(石井米雄監修、鈴木静夫・早瀬晋三編、同朋舎出版、1992年)
『[フィリピンの歴史・文化・社会-単一にして多様な国家](#)』(デイビッド・J・スタインバーグ著、堀芳枝・石井正子・辰巳頼子訳、明石書店、2000年)

歴史

- 『[フィリピン諸島誌](#)』(アントニオ・モルガ著、神吉敬三・箭内健次訳、大航海時代叢書7、岩波書店、1966年)
『[東南アジア史2 島嶼部\(新版\)](#)』(池端雪浦編、新版世界各国史6、山川出版社、1999年)
『[岩波講座 東南アジア史](#)』全9巻・別1巻(池端雪浦・石井米雄・石渾良昭・加納啓良・後藤乾一・斎藤照子・桜井由躬雄・末廣昭・山本達郎編、2001~03年)
『[フィリピン史物語-政治・社会・文化小史](#)』(テオドロ・A・アゴンシルリヨ著、岩崎玄訳、井村文化事業社(勁草書房発売)、1977年)。
『[フィリピン民衆の歴史\(1-2巻、3-4巻\)](#)』(レナト・コンスタンティーノ、レティシア・R・コンスタンティーノ著、池端雪浦ほか訳、全4巻、井村文化事業社(勁草書房発売)、1978~80年)
『[物語マニラの歴史](#)』(ニック・ホアキン著、宮本靖介監訳、橋本信彦・深田公伸訳、明石書店、2005年)
『[物語フィリピンの歴史-「盗まれた楽園」と抵抗の500年](#)』(鈴木静夫著、中公新書、1997年)
『[暁よ紅に-フィリピン独立運動の悲運のヒーロー ホセ・リサールの生涯](#)』(カルロス・キリノ著、駐文館訳、駐文館、1990年)
『[フィリピン革命とカトリシズム](#)』(池端雪浦著、勁草書房、1987年)、
『[キリスト受難詩と革命-1840~1910年のフィリピン民衆運動](#)』(レイナルド・c・イレ一著、清水展・永野善子監修、川田牧人・宮脇聡史・高野邦夫訳、法政大学出版局、2005年)
『[フィリピン歴史研究と植民地言説](#)』(レイナルド・イレート、ビセンテ・L・ラファエル、フロロ・c・クビエン著、永野善子編・監訳、めこん、2004年)
『[歴史と英雄-フィリピン革命百年とポストコロニアル](#)』(永野善子著、神奈川大学評論ブックレット11、御茶の水書房、2000年)

- 『未完のフィリピン革命と植民地化』(早瀬晋三著、山川出版社、2009年)
- 『フィリピン経済史研究—糖業資本と地主制』(永野善子著、勁草書房、1986年)
- 『砂糖アシエンダと貧困—フィリピン・ネグロス島小史』(永野善子著、勁草書房、1990年)
- 『フィリピン銀行史研究—植民地体制と金融』(永野善子著、御茶の水書房、2003年)
- 『フィリピン独立問題史—独立法問題をめぐる米比関係史の研究(1929—46年)』(中野聡著、龍溪書舎、1997年)
- 『歴史経験としてのアメリカ帝国—米比関係史の群像』(中野聡著、岩波書店、2007年)
- 『マッカーサー—フィリピン統治から日本占領へ』(増田弘著、中公新書、2009年)
- 『近現代日本・フィリピン関係史』(池端雪浦、リディア・N・ユーホセ編著、岩波書店、2004年)
- 『運命の歲月 I フィリピンにおける日本の冒険 1941~45』(テオドロ・A・アゴンシリヨ著、二村健訳、井村文化事業社(勁草書房発売)、1991年)
- 『山中放浪—私は比島戦線の浮浪人だった』(中公文庫、今日出海著、1978年)
- ★図書館所蔵資料では『[南海の死闘](#)』
(昭和戦争文学全集編集委員会編、集英社、1965年)に収載
- 『悲劇の将—山下奉文・本間雅晴』(中公文庫、今日出海、1988年)
- 『[スータンを縫いながら—日本占領記を生きたフィリピン女性の回想](#)』(ペラジア・V・ソリヴェン著、後藤優訳、段々社、2007年)
- 『[日本占領下のフィリピン](#)』(池端雪浦編、岩波書店、1996年)
- 『[日本のフィリピン占領—インタビュー記録](#)』(南方軍政関係史料15、日本のフィリピン占領期に関する史料調査フォーラム編、龍溪書舎、1994年)
- 『[聞き書きフィリピン占領](#)』(上田敏明著、勁草書房、1990年)
- 『[ワラン・ヒヤ—日本軍によるフィリピン住民虐殺の記録](#)』(石田甚太郎著、現代書館、1990年)
- 『[殺した殺された—元日本兵とフィリピン人二〇〇人の証言](#)』(石田甚太郎著、径書房、1992年)
- 『[俘虜記](#)』(大岡昇平著、新潮文庫、1967年)
- ★図書館所蔵資料では『[大岡昇平集](#)』(新潮社、1971年)にも収載
- 『レイテ戦記(上・中・下)』(大岡昇平著、中公文庫、1974年)
- ★図書館では [単行本\(中央公論社、1971年\)](#) を所蔵
- 『物語・日本人の占領』(津野海太郎著、平凡社ライブラリー、1999年)
- ★図書館では [初版\(朝日新聞社、1985年\)](#) を所蔵
- 『[南方特別留学生トウキョウ日記—フィリピン人のみた戦時下の日本](#)』(レオカディオ・デアシス著、高橋彰編訳、秀英書房、1982年)
- 『ホセ・P・ラウレル博士戦争回顧録』(ホセ・P・ラウレル著、山崎重武訳、日本教育新聞社1987年)
- 『[日比賠償外交交渉の研究—1949~1956](#)』(吉川洋子著、勁草書房、1991年)
- 『[海域イスラーム社会の歴史—ミンダナオ・エスノヒストリー](#)』(早瀬晋三著、岩波書店、2003年)
- 『[歴史研究と地域研究のはざま—フィリピン史で論文を書くとき](#)』(早瀬晋三著、法政大

学出版局、2004年)

『[南の探検](#)』(蜂須賀正氏、平凡社ライブラリー、2006年)

『[フィリピンの公教育と宗教－成立と展開過程](#)』(市川誠著、東信堂、1999年)

政治

『[フィリピン・ナショナリズム論\(上・下\)](#)』(鶴見良行監訳、井村文化事業社(勁草書房発売)、1977年)

『[略奪の政治－マルコス体制下のフィリピン](#)』(ベリンダ・アキノ著、伊藤美名子訳、同文館、1992年)

『[現代フィリピンの政治と社会－マルコス戒厳令体制を超えて](#)』(ディビッド・ワーフェル著、大野拓司訳、明石書店、1997年)

『[アキノ大統領誕生－フィリピン革命はこうして成功した](#)』(ルイス・サイモンズ著、鈴木康雄訳、筑摩書房、1989年)

『[文化のなかの政治－フィリピン「二月革命」の物語](#)』(清水展著、弘文堂、1991年)

『[フィリピン－マルコスからアキノへ](#)』(浅野幸穂著、アジア経済研究所、1991年)

『[アキノ家三代－フィリピン民族主義の系譜](#)』(ニック・ホアキン著、鈴木静夫訳、井村文化事業社(勁草書房発売)、1986年)。

『[こうして米軍基地は撤去された－フィリピンの選択](#)』(松宮敏樹著、新日本出版社、1996年)

『[ポスト・エドサ期のフィリピン](#)』(川中豪編、アジア経済研究所、2005年)

『[内発的民主主義への一考察－フィリピンの農地改革における政府、NGO、住民組織](#)』(堀芳枝、国際書院、2005年)

『[フィリピンの民主化と市民社会－移行・定着・発展の政治力学](#)』(五十嵐誠一著、成文堂、2004年)

『[フィリピン新人民軍従軍記－ナショナリズムとテロリズム](#)』(野村進著、講談社十アルファ文庫、2003年)

『[ジェンダーの政治経済学－フィリピンにおける女性と性的分業](#)』(エリザベス・ウィ・エヴィオータ著、佐竹直明・稲垣紀代訳、明石書店、2000年)

『[フィリピン家族法【第二版】](#)』(J・N・ノリエド著、奥田安弘・高畑幸訳、明石書店、2007年)

『[アジアの大都市4 マニラ](#)』(大阪市立大学経済研究所監修、中西徹・小玉徹・新津晃一編、日本評論社、2001年)

経済

『[フィリピンの農村－その構造と変動](#)』(梅原弘光著、古今書院、1992年)

『[フィリピン農村開発の構造と改革－フィリピン日本共同研究](#)』(A・M・バリサカン、野澤勝美編著、アジア経済研究所、1994年)

『[現代フィリピン経済の構造](#)』(森潭恵子著、勁草書房、1993年)

『[岐路にたつフィリピン電機産業](#)』(森潭恵子著、勁草書房、2004年)

『[変動するフィリピンー経済開発と国土空間形成](#)』(貝沼恵美・森島済・小田宏信著、二宮書店、2009年)

『[トヨタ・イン・フィリピンーグローバル時代の国際連帯](#)』(遠野はるひ・金子文夫著、社会評論社、2008年)

『フィリピンの地場産業ともう一つの発展論 鍛冶屋と魚醤』(佐竹輿明著、明石書店、1998年)

★図書館では、[オンデマンド版](#) (2004年刊) を所蔵

『[スラムの経済学ーフィリピンにおける都市インフォーマル部門](#)』(中西徹著、東京大学出版会、1991年)

『[フィリピンの児童労働と観光産業](#)』(ILOフィリピン・プロジェクトチーム編、日本労働組合総連合会訳、明石書店、2001年)

『[フィリピンを乗っ取った男ー政商ダンディン・コフアッコ](#)』(アール・パレーニヨ著、堀田正彦・加地永都子訳、太田出版、2005年)。

文化

『[フィリピンのこころ](#)』(メアリー・R・ホルンスタイナー編、めこん、1977年)

『フィリピン大衆文化への招待』(シンシア・ルンペラ、テレシタ・マセダ編、福永敬編訳、井村文化事業社、1990年)

★図書館では [初版 \(1985年刊行\)](#) を所蔵

『[フィリピンの大衆文化](#)』(寺見元恵編・監訳、めこん、1992年)

『[東南アジアのキリスト教](#)』(寺田勇文編、めこん、2002年)

『[たそがれの神父ーこころのふるさと、フィリピン物語](#)』(西本至著、同文書院インターナショナル、2000年)

『[バナナと日本人](#)』(鶴見良行、岩波新書、1982年)

『[マングローブの沼地でー東南アジア島嶼文化論への誘い](#)』(鶴見良行、朝日新聞社、1984年)

『[フィリピン国ボントク村ー村は「くに」である](#)』(大崎正治著、農山漁村文化協会、1987年)

『[首狩りと言霊ーフィリピン・ボントック族の社会構造と世界観](#)』(合田濤著、弘文堂、1989年)

『[ジェンダーの民族誌ーフィリピン・ボントックにおける女性と社会](#)』(森谷裕美子著、九州大学出版会、2004年)

『[出来事の民族誌ーフィリピン・ネグリート社会の変化と持続](#)』(清水展著、九州大学出版会、1990年)

『[噴火のこだま ピナトゥポ・アエタの被災と新生をめぐる文化・開発・NGO](#)』(清水展著、九州大学出版会、2003年)

『[ハヌノオ・マンヤン族ーフィリピン山地民の社会・宗教・法](#)』(宮本勝著・第一書房、1986年)

『[祈りと祀りの日常知ーフィリピン・ビサヤ地方バンタヤン島民族誌](#)』(川田牧人著、九州大学出版会、2003年)

- 『[海域世界の民族誌ーフィリピン島嶼部における移動・生業・アイデンティティ](#)』(関恒樹著、世界思想社、2007年)
- 『[女性が語るフィリピンのムスリム社会ー紛争・開発・社会的変容](#)』(石井正子著、明石書店、2002年)
- 『[熱帯雨林の知恵ーフィリピン・ミンダナオ島の平和愛好部族](#)』(スチュワート・A・シュレーゲル著、仙名紀訳、アサヒビール、2003年)
- 『[貧困の民族誌ーフィリピン ダバオ市のサマの生活](#)』(青山和佳著、東京大学出版会、2006年)
- 『フィリピン漂海民一月とナマコと珊瑚礁』(門田修著、河出書房新社、1986年)
- 『海賊のころースルー海賊訪問記』(門田修著、筑摩書房、1990年)
- 『[越境ースルー海域世界から](#)』(床呂郁哉著、岩波書店、1999年)
- 『[漂海民バジャウの物語 人類学者が暮らしたフィリピン・スルー諸島](#)』(H・A・ニモ著、西重人訳、現代書館、2001年)
- 『[フィリピン・スルーの海洋民ーバジャウ社会の変化](#)』(H・A・ニモ著、西重人訳、現代書館、2005年)
- 『[フィリピンの子どもたちはなぜ働くのかーアジアの子どもの社会学](#)』(マリア・ロザリオ・ビケロ・バレスカス著、河口和也ほか訳、明石書店、1991年)
- 『[スポーツで読むアジア](#)』(平井肇編、世界思想社、2000年)
- 『[ドローンとメロディー 東南アジアの音楽思想](#)』(ホセ・マセダ著、高橋悠治編訳、新宿書房、1989年)

国際協力

- 『[フィリピンの環境とコミュニティー 砂糖生産と伐採の現場から](#)』(永野善子・葉山アツコ・関良基著、明石書店、2000年)
- 『[複雑適応系における熱帯林の再生 違法伐採から持続可能な林業へ](#)』(関良基著、御茶の水書房、2005年)、
- 『[グローバルネットワークー資源開発のディレンマと開発暴力からの脱却を目指して](#)』(栗田英幸著、晃洋書房、2005年)
- 『[フィリピンバナナのその後 - - 多国籍企業の操業現場と多国籍企業の規制 \(改訂版\)](#)』(中村洋子著、七つ森書館、2006年)
- 『改訂新版 フィリピン援助と自力更生論ー構造的暴力の克服』(横山正樹著、明石書店、1994年)
- 『[フィリピンー開発・国家・NGO](#)』(木村宏恒著、三一書房、1998年)
- 『[開発援助の実像](#)』(津田守・横山正樹編著、亜紀書房、1999年)
- 『[火曜日はマーシーの日ーフィリピン母子保健の10年](#)』(中原俊隆著、ぱる出版、2002年)
- 『[自然災害と国際協カーフィリピン・ピナトゥボ大噴火と日本](#)』(津田守・田巻松雄編著、新評論、2001年)
- 『[涙の島希望の島ーネグロスの人々とある神父の物語](#)』(ニアール・C・オブライエン著、大塚佐太郎・大河原晶子訳、朝日新聞社、1991年)
- 『[NGO主義でいこう インド・フィリピン・インドネシアで開発を考える](#)』(小野行雄著、

藤原書店、2002年)

『[フィリピンの少女ピア－性虐待をのりこえた軌跡](#)』(中島早苗・野川未央・フリ・ザ・チルドレン・ジャパン・プレダ基金編著、大月書店、2006年)

『[ライフワークとしての国際ボランティア](#)』(久保田賢一著、明石書店、2005年)

『[ネグロス・マイラブ](#)』(大橋成子著、めこん、2005年)

『[人はなぜ「権利」を学ぶのか－フィリピンの人権教育](#)』(阿久潭麻理子著、解放出版社、2002年)

『[フィリピンの人権教育－ポスト冷戦期における国家・市民社会・国際人権レジームの役割と関係性の変化を軸として](#)』(阿久津麻理子著、解放出版社、2006年)

移民

『[フィリピンと日本－交流500年の軌跡](#)』(佐藤虎男著、サイマル出版会、1994年)

『[「ベンゲット移民」の虚像と実像－近代日本・東南アジア関係史の一考察](#)』(早瀬晋三著、同文館、1989年)

『[ダバオ国の末裔たち－フィリピン日系棄民](#)』(天野洋一著、風媒社、1990年)

『[ハポン－フィリピン日系人の長い戦後](#)』(大野俊著、第三書館、1991年)

『[フィリピンの一日本人から](#)』(大沢清著、新潮社、1978年)

『[バギオの虹－シスター海野とフィリピン日系人の一〇〇年](#)』(鴨野守、アートヴィレッジ、2003年)

『[マニラへ渡った瀬戸内漁民－移民送出母村の変容](#)』(武田尚子著、御茶の水書房、2002年)

『[ぼくはいつも隠れていた－フィリピン人生不法就労記](#)』(レイ・ベントウーラ著、松本剛史訳、草思社、1993年)

『[横浜コトブキーフィリピーノ](#)』(レイ・ベントウーラ著、森本麻衣子訳、現代書館、2007年)

『[折りたたみイスの共同体](#)』(イバーラ・C・マテオ著、北村正之訳、星雲社、1999年)

★図書館では、[改訂版](#) (『「滞日」互助網：折りたたみ椅子の共同体』2003年刊)を所蔵

『[フィリピン女性エンターテイナーの世界](#)』(マリア・ロザリオ・ピケロ・バレスカス著、津田守監訳、明石書店、1994年)

『[フィリッピーナを愛した男たち](#)』(久田恵著、文芸春秋、1989年)

★図書館所蔵資料では『[国際化の洗礼](#)』(柳田邦男編、文芸春秋、1993年)に収載

『[死んでもいい－マニラ行きの男たち](#)』(浜なつ子著、太田出版、1999年)

『[ザ・フィリピンパブ－雇われ店長が覗いたニッポンの異空間](#)』(福沢諭著、情報センター出版局、2001年)

『[ザ・フィリピンパブ嘘 誰も描けなかったピナたちの物語](#)』(福沢諭著、情報センター出版局、2003年)

『[ザ・フィリピン妻 雇われ店長が溺れたディープすぎる世界](#)』(福沢諭著、情報センター出版局、2004年)

『[フィリッピーナはどこへ行った－日本から消えた彼女たちの「その後」](#)』(白野慎也著、情報センター出版局、2007年)

- 『[フィリピン女性エンターテイナーのライフストーリー エンパワメントとその支援](#)』
(武田文編著、関西学院大学出版会、2005年)
- 『[フィリピン女性エンターテイナーの夢と現実 マニラ、そして東京に生きる](#)』(DAWN著、
Dawn/Japan訳、明石書店、2005年)
- 『[パパからの初めての手紙](#)』(JFCを支えるネットワーク編、游学社、2005年)は、JFC
(Japanese Filipino Children)
- 『[フィリピンー日本国際結婚ー移住と多文化共生](#)』(佐竹直明・M・A・ダアノイ著、めこ
ん、2006年)
- 『[どこへ行く介護難民ーフィリピン人介護士にケアを受けるということ](#)』(稲葉敬子著、ベ
リかん社、2008年)
- 『[国境を越えるフィリピン村人の民族誌ートランスナショナリズムの人類学](#)』(長坂格著、
明石書店、2009年)
- 『[エスニック学生組織に見る「祖国」ーフィリピン系アメリカ人のナショナリズムと文化](#)』
(木下昭著、不二出版、2009年)

文学

- 『[ノリ・メ・タンヘレーわが祖国に捧げる](#)』(岩崎玄訳、井村文化事業社(勁草書房発売)、
1976年)
- 『[反逆・暴力・革命 エル・フィリプステリスモ](#)』(岩崎玄訳、井村文化事業社、1976年)
- 『[我が心のアメリカーフィリピン人移民の話](#)』(カルロス・ブロサン著、井田節子訳、井村
文化事業社(勁草書房発売)、1984年)
- 『[暁を見ずに](#)』(ステヴァン・ハヴェリヤーナ著、阪谷芳直訳、井村文化事業社(勁草書房
発売)、1976年)
- 『[象がおどるとき\(上・下\)](#)』(テス・ウリザホルス著、小島希里訳、太田出版、2005年)
- 『[フィリピン短編小説珠玉選\(1・2\)](#)』(寺見元恵、山下美知子編訳、井村文化事業社、
1978~79年)
- 『[仮面の群れ](#)』(フランシスコ・ショニール・ホセ著、山本まつよ訳、めこん、1984年)
- 『[民衆\(上・下\)](#)』(フランシスコ・ショニール・ホセ著、山本まつよ訳、めこん、1991
年)
- 『[二つのヘソを持った女](#)』(ニック・ホワキン著、山本まつよ訳、めこん、1988年)
- 『[アンドロメダ星座まで](#)』(グレゴリオ・C・ブリヤンテス著、宮本靖介・土井一宏訳、井
村文化事業社(勁草書房発売)、1988年)
- 『[マニラー光る爪](#)』(エドガルド・M・レイエス著、寺見元恵訳、めこん、1981年)
- 『[レイナ川の家](#)』(リワイワイ・A・アルセオ、寺見元恵訳、段々社、1990年)
- 『[七〇年代](#)』(ルアールハティ・バウティスタ、榎谷哲訳、めこん、1993年)
- 『[あぎなると 比律賓独立戦話\(前・後\)](#)』(山田美妙著、国文学研究資料館、2008年)
- 『[海辺の怒り](#)』(石田甚太郎著、新読書社、2001年)
- 『[ロラたちの青春](#)』(石田甚太郎著、新読書社、2002年)
- 『[JFCの母と子の物語](#)』(石田甚太郎著、新読書社、2004年)
- 『[拳の漂流ー「神様」と呼ばれた男ベビー・ゴステロの生涯](#)』(城島充著、講談社、2003

年)

『[フィリピン最底辺を生きる](#)』(岩波フォト・ドキュメンタリー世界の戦場から、山本宗補著、岩波書店、2003年)

『[アジア映画](#)』(四方田犬彦編、作品社、2003年)

『[アジア映画の大衆的想像力](#)』(四方田犬彦著、青土社、2003年)

『[私はなぜアジアの映画を見つづけるか](#)』(佐藤忠男著、平凡社、2009年)

(2013年7月18日 文責：小川英文)